



医長 小林医師

10年後も続く地域医療を目指して

私が2019年10月に市立病院に赴任すると同時に「地域医療部」という部署ができました。皆さんはご存知でしょうか。病院のホームページにも載らない部署ですので、ご存知ない方も多いと思います。市立病院の展開する移動診療所（Uda Mobile Clinic: UMC）、在宅医療（訪問診療や往診）を担っているのは、この「宇陀市立病院 地域医療部」です。

地域医療部には松島副院長、私を初め、実質5人の医師が所属しています。（うち1人は診療所をメインにしながら、当院と連携して業務にあたっています。）医師は皆、奈良県立医科大学 総合診療科にも属しており、小児から大人まで、「まず診る」というスタンスを大切にしていますし、そのための訓練を受けています。ですから、困った時は遠慮なく受診して、相談してください。自分たちでできるなら治療を行いますし、UMCで治療できなければ、適切な専門医や病院への紹介をさせていただきます。

地域の基幹病院として木の幹のような医療を担いつつ、UMCで枝のよう

に地域に医療を広げ、それでも届かない場合は在宅医療という葉を伸ばして行く。地域医療部はこの3つのスタイルを全て組み合わせて医療をしています。これは医師以外にも様々な職種、様々な方たちの活躍があるからこそ、できていることです。地域医療部のチーム全員が市民の皆さん・患者さんに何ができるかを考え、各人がそれぞれの役割を果たしています。地域医療部の全員が特に大切にしているのは、患者さんと地域との関係性です。誰と誰が親戚なのか、地域の特徴、介護との関わりはどうなっているのか、といったことです。診療所や在宅医療で地域に出て医療をするためには、長い時間をかけて、その地域と関っていくことも重要なのです。医学的な面だけでなく、人間関係・地域全体にも目を向ける「地域に根ざした医療」が地域医療部・UMCの提供する医療です。

最後になりましたが、地域医療部の開設時に私の掲げていた目標は「10年後も続く地域医療」です。その気持ちは今も変わりません。10年経てば、当然いろんなことが変化します。医学も進歩しますし、医療のニーズも変化するでしょう。医師自身も年をとりますし、メンバーも変わるかもしれません。そういった変化にも柔軟に対応しつつ、腰を据えて、質の高い医療を変わず提供し続けることが重要だと考えています。そのために、新しい試みであるUMCが市民の皆さんから頼られ、愛され、宇陀市にとって欠かせない存在になって欲しいと願いながら、これからもチーム一丸となって努力していきたいと思います。

一次医療空白地の医療を担う

皆さんはかかりつけ医をお持ちですか？かかりつけ医とは、健康に関することを相談でき、必要時には専門医療機関を紹介してくれる、身近にいる医師のことです。かかりつけ医に相談するのは、病気の時だけではなくありません。普段の健康管理、生活習慣病の予防、ワクチン接種など、かかりつけ医が携わる内容は多岐にわたり、こういった医療を一次医療と呼びます。宇陀市内においては、医院の閉業に伴い、一次医療の空白地帯が存在します。このようなエリアで移動診療車を活用した診療を行い、家庭医として多くの市民の方へ広く医療を提供できるよう活動をしています。ご自宅近くでかかりつけ医を持っていないなどで困りの方は、移動診療車までご相談ください。



佐和医師

頼りになる地域医療医を目指して

毎週金曜日に宇陀田原区集会所での移動診療を担当している、阪本そうた宗大です。出身は和歌山県ですが、奈良県立医科大学入学を機に奈良県にきて11年が経過しました。奈良医大総合診療科に所属しており、今年の7月から市立病院で勤務しています。

地域の医療に関わるのが好きで、専門は総合診療・家庭医療です。臓器に関わらずお子さんから高齢の方を対象に、身体のことでも困ったらまず相談してみようと思って頂けるよう日々精進しています。豊かな自然に囲まれながら、皆さんのお役に立てるようがんばりますのでよろしくお願いします。

移動診療車は、診療所としては十分な機能を備えています。困った症状があれば、まずはご相談頂けると嬉しいです。よろしくお願いします。

動く診療所～地域に愛される移動診療車を目指して～

動く診療所スタート

医療空白地対策として導入された移動診療車、令和4年5月11日より診療をスタートしました。1台で診療所機能を備えた移動診療車は日本初。今回の特集は、その運用を任された宇陀市立病院と移動診療車の活躍を紹介します。

問 市立病院（☎82・0381）
問 健康増進課（☎82・3692/IP ☎88・9087）

新しい医療提供体制を利用して、健康寿命を伸ばしましょう

今までの外来・入院医療は患者さんが病院に来られるのを待っていて、私たちが医療を提供するという形でしたが、地域に密着した「面倒見のいい病院」を目指す市立病院では、病院からスタッフが地域に出かけて医療を提供する新しい医療提供体制を推進しています。

これまでの経緯をお話ししますと、2019年10月には地域医療部を開設し、訪問診療、訪問リハビリを開始しました。

2021年12月には国より、へき地医療拠点病院の承認を受け、東和地域の地域医療を支援するため、へき地医療支援体制を強化しました。

さらに、5月から、開業医が閉院され無医地区となった大宇陀南部・北部地域への移動診療車の運行を開始しました。移動診療車には地域医療部の医師・看護師が同乗し、X線撮影、血液検査、心電図、エコー検査等、診療所とほぼ同等の医療機器が搭載されており、日本でも珍しい高性能診療車で、全国的にも注目を集めています。

これから、市立病院では外来・入院診療の更なる充実に努めますとともに、病院から地域への医療提供体制（移動診療車、訪問診療、訪問リハビリ、へき地診療所支援等）も強化してまいります。そして、介護サービスとも密に連携し、生活支援、重症化予防、健診等の充実に図り、健康の回復から維持、予防まで、多機能で市民の皆さんのトータルヘルスケアを担う地域中核病院として、健康寿命延伸に寄与できるよう努めてまいります。

今後とも「地域の皆さんに愛され、支援される病院」、「地域の誇りとされる病院」、さらに「職員一同、誇りを持って楽しく働ける病院」を目指してがんばります。引き続き、市民の皆さんのご協力ご支援よろしく願います。



副院長 松島医師

皆さんの期待を背負って～診療の充実と安心を目指す～

高齢化が進む宇陀地区で唯一の公的病院として、地域に開かれた病院づくりは市民、行政、そして病院自身にとっても長らくの念願でした。奈良県立医科大学から医師派遣を受け、3年前の10月に医師3人体制で「地域医療部」を開設しました。宇陀地区医師会からもご理解をいただき、訪問診療を開始しました。また室生地域の国保診療所も担いました。訪問診療については、ご利用患者、ご家族からご評価を頂戴しています。診療所配属者を加えると、現在は医師5人体制になっています。

地域医療部開設による副次的な効果もありました。病院内に对外部門ができることによって、患者さんの日常生活や退院後生活を見据えた認識が病院全体で共有できるようになりつつあります。

本年4月には移動診療車を用意いただきました。X線撮影装置を備えた移動診療車は、おそらく日本初です。県内外の各方面から事業成

否が注目されています。広い市域に集落が点在する宇陀市にとって、貴重な戦力になります。診療のみならず、健診事業や予防接種など、積極的な活用をしてまいります。

移動診療車は市立病院本体をしのぐほどの立派な医療機器を搭載しています。注目度も高く、本事業の部門長として身が引き締まる思いです。常設診療所にはない機動性を生かして、積極的な医療を展開してまいります。

移動診療車だけが充実しても、市民の付託に応えられません。病院の診療に関して、まだ至らない部分があると思います。病院診療、移動診療車の両方を充実させ、「宇陀に住んでいてよかった」と市民の方に思っただけけるよう、安心をお届けしてまいります。



▲上龍門まち協 森田会長



▲診察に来られた地域の方と交流する森田会長

地域の方々の協力があつてこそ、診療ができる

移動診療車には、待合室やトイレはありません。地域の公共施設などをお借りして診療を行います。そのため、診療時の施設の管理は、地域の方々が担っています。上龍門まち協会長に、移動診療車が来るようになってからの地域の方の変化やこれからについてインタビューしました。

地域の親しみある診療所に

この地域の診療所が閉院していく中、大宇陀人権交流センターと8月から田原区集会所に移動診療車が来るようになりました。地域に2か所の診療所ができたようで、今まで、近くに病院がないからと、病院での受診をあきらめていた地域の方も受診できるようになりました。最初は少なかった利用者も

どんどん増えてきました。

私は、毎週金曜日、田原区集会所での移動診療車の診療開始から終了までの間、集会所の開設等に携わっています。病院に通院することが困難だった方から「助かるわー」等の声が聞け、地域の方の病気等の早期発見にも貢献できているのではないかと思うと非常にやりがいのある役割を任されていると感じます。

これからも地域のために

「移動診療車がかかりつけの診療所です」という地域の方が増えるように、これからも地域の方に移動診療車の周知、また、まち協の行事の一環として、地域全体で協力し、移動診療車が居心地のよい地域の診療所になるよう貢献できればと考えています。



▲大宇陀人権交流センターで受診された中谷さん

利用者の声

今回で移動診療車を利用して、4回目になります。地域の診療所がなくなっていく中で、移動診療車が来てくれるようになり、とても助かります。今までは、バスやタクシー、家族に送り迎えしてもらって病院を受診していましたが、移動診療車が来てくれて、徒歩でも受診できるようになりました。

通常の病院では、専門医に診てもらうことが多いのですが、移動診療車では、総合的に身体の状態をみくれるので、どんなことでも相談できます。薬も自宅まで配達が可能で薬局を紹介してくれるので、とても助かります。

近くの方で、まだ利用したことがない方はぜひ利用してみてください。

近 つけの診療所がなくなり、かかりつけの病院を探していたところ、広報うだや知人の紹介で、移動診療車のことを知り、今回、初めて利用してみようと思いました。先生も質問に親切に答えてくれて、医療機器も病院に劣らないと聞き安心しました。市立病院と連携もしていて、検査した移動診療車で、結果の説明等も行ってもらえるので非常に便利です。

田原区集会所は市の「かぎろひバス」とも連携をしているので、かかりつけの診療所として今後も受診しようと思います。

新型コロナウイルスのワクチン接種や発熱外来の対応もやっているとのこと、今後も活用の幅が広がれば、もっと便利になると思います。

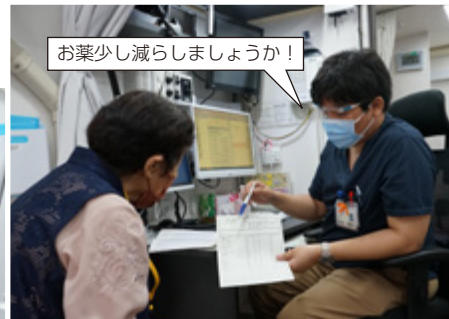


▲田原区集会所で受診された 竹永さん

移動診療車内での診療の様子

移動診療車の中には、一般のクリニックにも劣らない医療機器が備えられており、安心して診療を受けられます。

また、移動診療車の診療にあたる市立病院の医師は、奈良県立医科大学の総合診療科にも所属しており、患者の生活や気持ちに寄り添いつつ、幅広い疾患に対応しています。



▲検査結果の説明を受ける患者さん



▲血圧をチェックして身体の状態を確認！

発熱外来・予防医療にも対応！

一般診療以外にも、新型コロナウイルスのワクチン接種や、発熱患者に対する新型コロナウイルスの検査なども行なっています。また、11月からは特定健診や一部のがん検診についても開始する予定です。

これからますます、市民の皆さんの健康増進・健康管理の一助となる様な取り組みを行なっていきます。



◀▲ドライブスルー方式での抗原検査の様子



●移動診療車の診療曜日と時間

受付時間	火曜日	水曜日	金曜日
場 所	大宇陀人権交流センター		田原区集会所
午前 9 時～ 11 時	—	小林医師	—
午後 1 時～ 3 時	佐和医師	—	—
午前 9 時 30 分～ 11 時 30 分	—	—	阪本医師

※受付時間内にお越しください。

お薬について

院外処方となります。処方箋を調剤薬局に持参して、お薬をお受け取りください。

〈調剤薬局に行くことが困難な場合〉

薬は配達での対応も可能です。受診時に配達調剤希望の旨をお伝えください。配達が可能で可能な薬局を紹介します。

※配達費用は有料になります。



11 月より健康診断を始めます！

【場所】・大宇陀人権交流センター
・田原区集会所

【実施する検診】

- ・国保特定健診・後期高齢者健診（お達者健診）
- ・お早め健診・大腸がん検診・肺がん検診
- ・前立腺がん検診・肝炎ウイルス検診

詳細・申し込みは

健診専用ダイヤル ☎ 92・5222

中央保健センターまでお電話いただき、「健診の種類と移動診療車にて受診希望」とお伝えください。診察時間等はご予約の際にお伝えします。





▲受付 藤岡・中川

移動診療車は私たちにとって初めてのことで、戸惑いもありましたが、患者さんから「近くに来てくれてよかった」「一人で来られるしいいわ」などのお言葉をいただき、地域の方とのつながりを感じられ、うれしく思います。

地域の方々に寄り添い、近くで安心して診察を受けていただける場になればと思います。笑顔でお待ちしています。

One Team で移動診療車の業務にあたるスタッフ

5月から病院を飛び出し、医師とともに移動診療車で、皆さんの元へ伺っています。

皆さんに信頼してもらえる診療ができるよう、努めていきます。お体で気になることがあれば、いつでも診察に来てください。予約なしで受診できます。お待ちしております。



▲市立病院 地域連携課 看護師



▲地域連携課 田中・玉村

移動診療車は市民の皆様の健康保持を目的としていますが、地域住民が集うコミュニケーションの場になればと思っています。

移動診療車が市民の皆様信頼され愛される場となりますように努めて参りますので、どうぞよろしくお願いいたします。



スタッフの皆さんに気持ちよく仕事をしてもらえるように、安全運転に努めます。



▲奈良交通 太田



●X線撮影機器●

一般のクリニックでも使用されるような装置です。

主に肺の検査や、骨折などの診断に使います。

※そのほかにも、心電計や体組成計、血圧計などの医療機器も備えており、万全の態勢で医療の提供が可能です。

移動診療車に搭載された医療機器を紹介

●除細動器●

普段は心電図や心拍を簡易的に見るための生体情報モニターとして、緊急の不整脈や心拍停止の際には、電気ショック（除細動器）として使うことができます。



●超音波撮影装置●

超音波で、体の内部を診察するための装置。

人体はほとんど影響なく、検査を行うことができます。

心臓、肝臓や腎臓などに加え、関節の診療などにも用いることがあります。



●血液・尿検査機器●

簡単な血液検査・尿検査は移動診療車のなかで行うことができます。

白血球の数や、貧血の数値、糖尿病の数値、炎症の数値といった項目はその場で検査することができます。

